

SMBC日興証券「個人投資家向けWeb IR」
塩野義製薬の社会課題解決と企業価値向上

京川 吉正

塩野義製薬株式会社 広報部長 兼 秘書室長

2022年3月4日



将来の見通しに関する注意事項



- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

1. 製薬ビジネスとは

- 医薬品市場
- 製薬ビジネスの課題と展望

2. What's SHIONOGI

3. 感染症のリーディングカンパニーとしての持続的な成長

-「感染症の脅威からの解放」の実現を目指して-

4. 株主還元

1. 製薬ビジネスとは

- － 医薬品市場
- － 製薬ビジネスの課題と展望

- ・ 医薬品は「**医療用医薬品**」と「**一般用医薬品**」に分けられる
- ・ 医療用医薬品は、「**新薬**」と「**ジェネリック医薬品**」に大別される

医療用医薬品

病院等で医師の診察を受けた後に、
薬局で受け取る医薬品

新薬

「アンメットメディカルニーズ」

ジェネリック

「社会保障費用軽減」

一般用医薬品

薬局や薬店で市販されている医薬品
OTC (Over the Counter)
「セルフメディケーション」



（特許医薬品）



（特許医薬品）

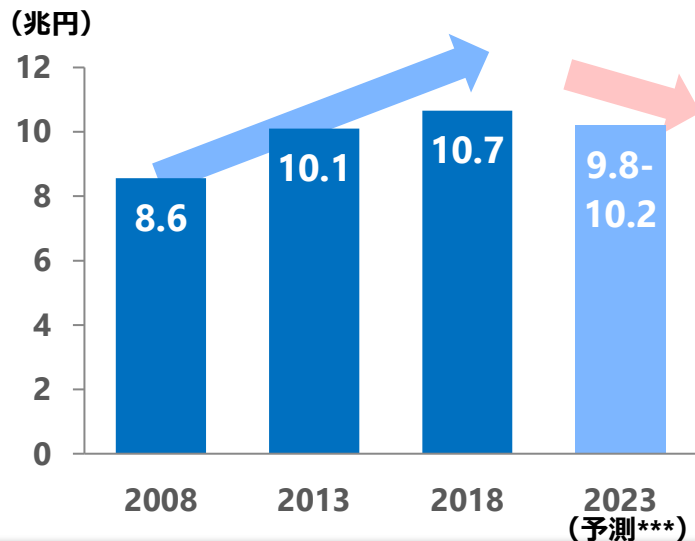


（特許医薬品）

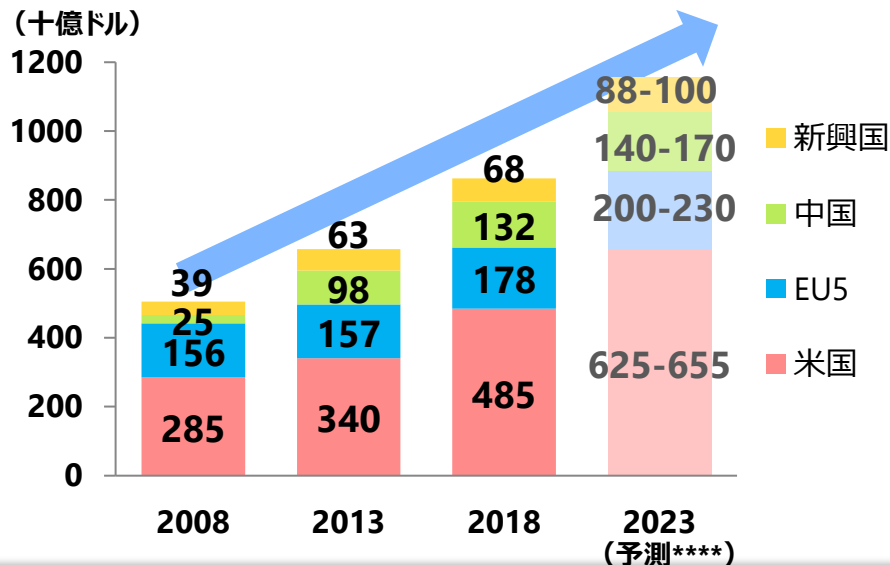
医薬品の市場規模の推移

- 日本の医薬品は、年間約10兆円の市場規模
- 2023年日本はマイナス成長と予測
- 世界の医薬品市場は、米国、中国を中心に拡大

日本の医薬品市場*



世界の医薬品市場** (日本除く)



1. 製薬ビジネスとは

－ 医薬品市場

－ 製薬ビジネスの課題と展望

医療用医薬品が発売されるまで

9～16年

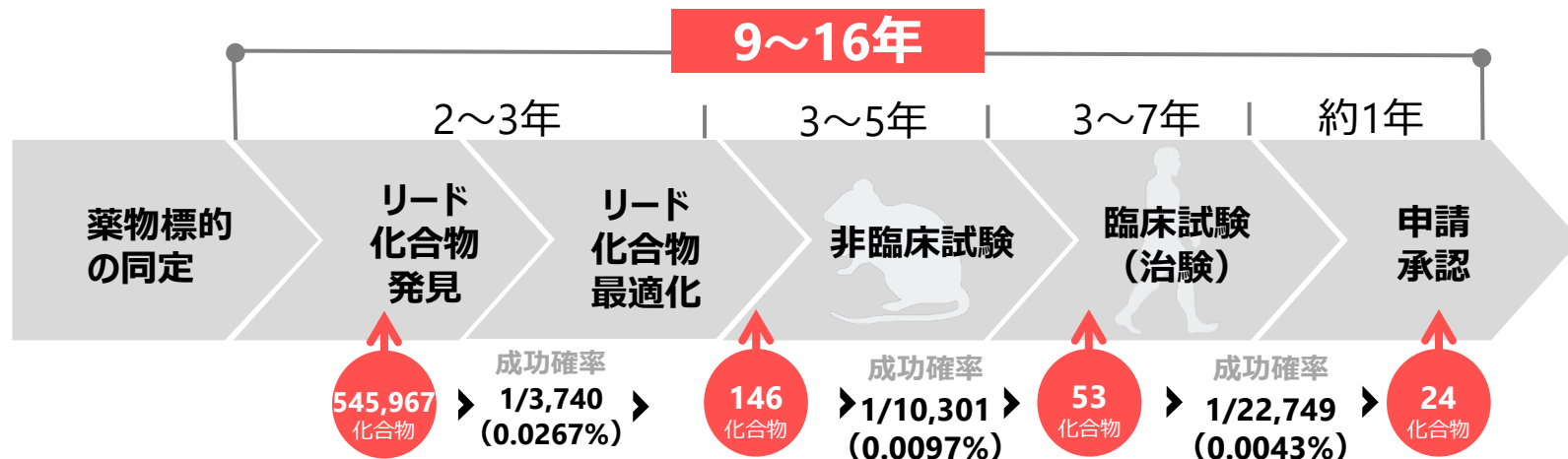
新薬が発売されるまでには
およそ15年の歳月がかかる

数百億円

ひとつの新薬を開発するためには、
数百億円～1千億円以上の研
究開発費が必要

0.004%

化合物が新薬として
発売される可能性は、
およそ2万3000分の1



タフツ大学（米）の報告では、新薬の上市に必要な開発費は約1,700億円*

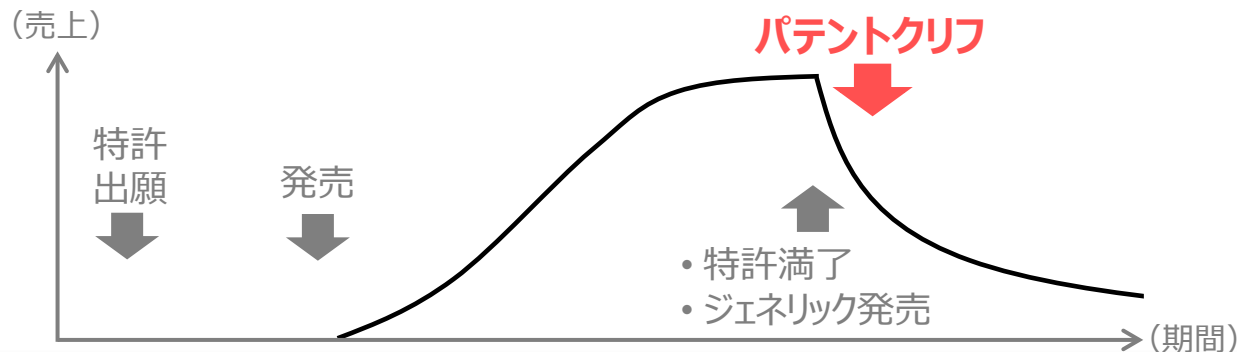
特許の存続期間は、特許出願の日から20年

特許が切れば

他のメーカーが、その医薬品を製造することができる

ジェネリック（後発医薬品）が市場に登場する

医薬品販売額の推移（イメージ図）

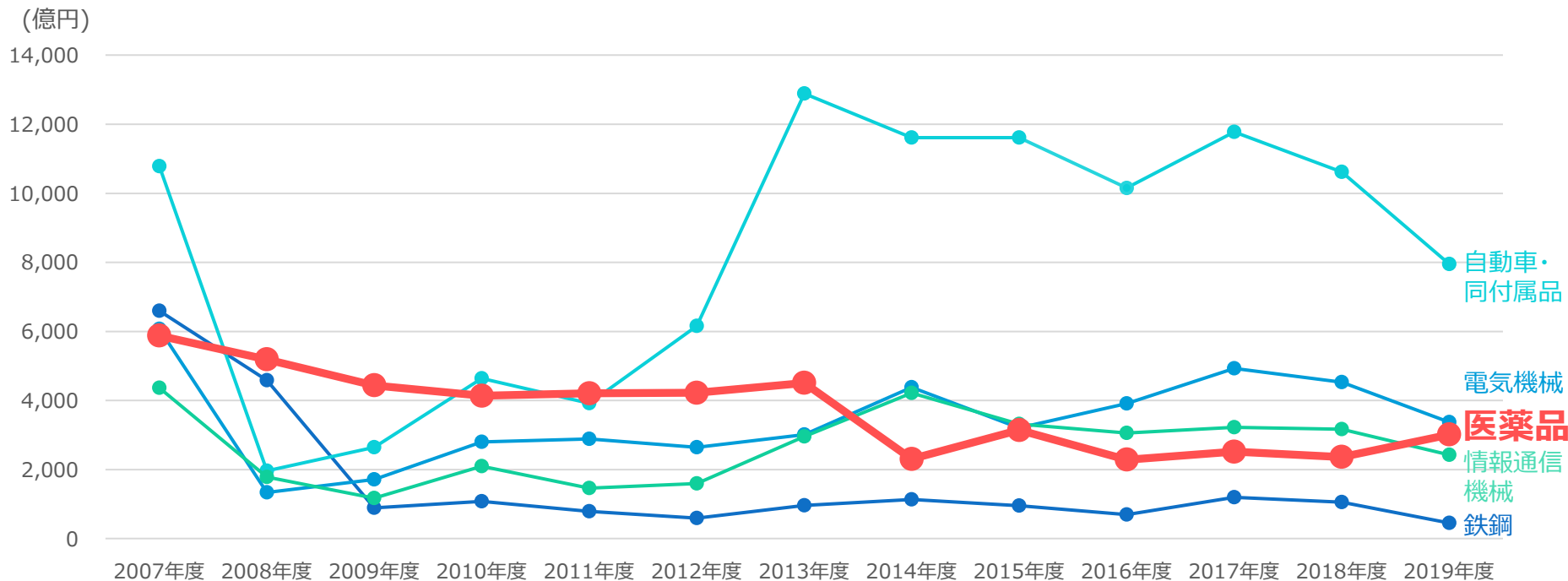


パテントクリフ

新薬に関する特許が切れた後、ジェネリック発売によって売上が激減すること。（売上推移を示すグラフが崖のような形を示す）

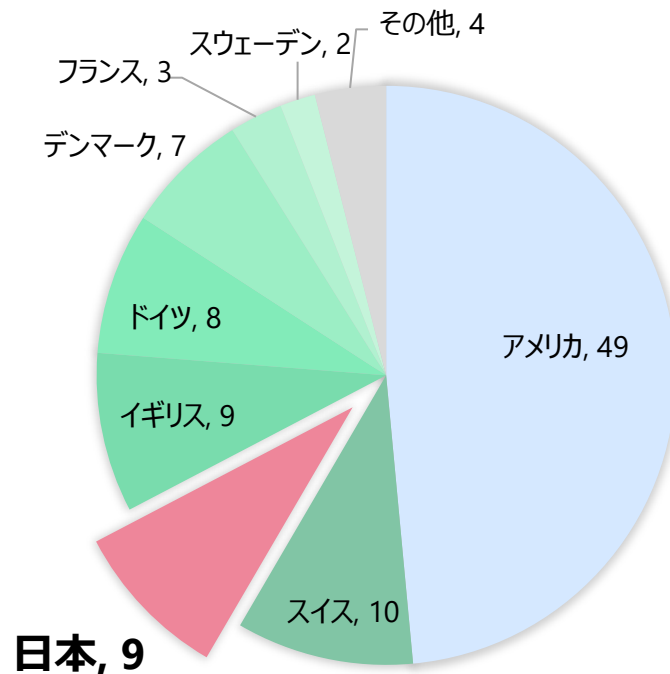
主要製造業の日本国内納税額の推移

- 製薬業界は、安定した担税力で日本の経済成長に貢献



主要国別・医薬品開発数（2019年度）

- 新薬を創出できる国は世界で数か国
- 日本は世界3位の新薬創出国
- アジアにおける新薬創出国は日本のみ



科学技術の発展・波及

- 産・学・官の協力体制
- 先端分野への挑戦
- 高度かつ多様な人材の育成・活用

健康長寿社会の実現

- 新薬の貢献
- アンメット・メディカル・ニーズへの取り組み
- 難病の克服に向けて
- ドラッグ・ラグの解消

生命関連産業 としての使命

『世界の人々の健康と
福祉の向上への貢献』

グローバルヘルスへの寄与

- 全世界への新薬展開
- アジア各国との連携
- 新薬創出における日本の役割
- 3大感染症とNTDs*

経済成長への寄与

- 安定した高水準の担税力
- 高付加価値産業としての製薬産業
- 研究開発への投資

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への貢献

- 医薬品の安定供給
- 治療薬・ワクチンの研究開発推進、等

2. What's SHIONOGI

シオノギといえば「ミュージックフェア」「セデス」「ポポンS」・・・



- 1964年8月31日の放送開始から50年以上、シオノギによる一社提供で放送
- 日本の民放音楽番組の中で最長寿



指定第2類医薬品



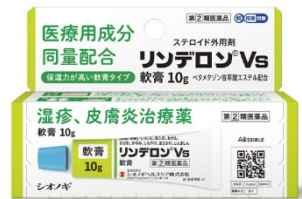
指定第2類医薬品



指定第2類医薬品



指定医薬部外品



指定第2類医薬品



第3類医薬品



第2類医薬品

シオノギの目的

**シオノギは、常に人々の健康を守るために
必要な最もよい薬を提供する。**

そのために

益々よい薬を創り出さねばならない。

益々よい薬を造らねばならない。

益々よい薬を益々多くの人々に知らせ、使って貰わねばならない。

創り、造り、売ることを益々経済的にやりとげねばならない。

そのために

シオノギの人々のあらゆる技術が日々休むことなく 向上せねばならない。

シオノギの人々が、人間として日々休むことなく 向上しなければならない。

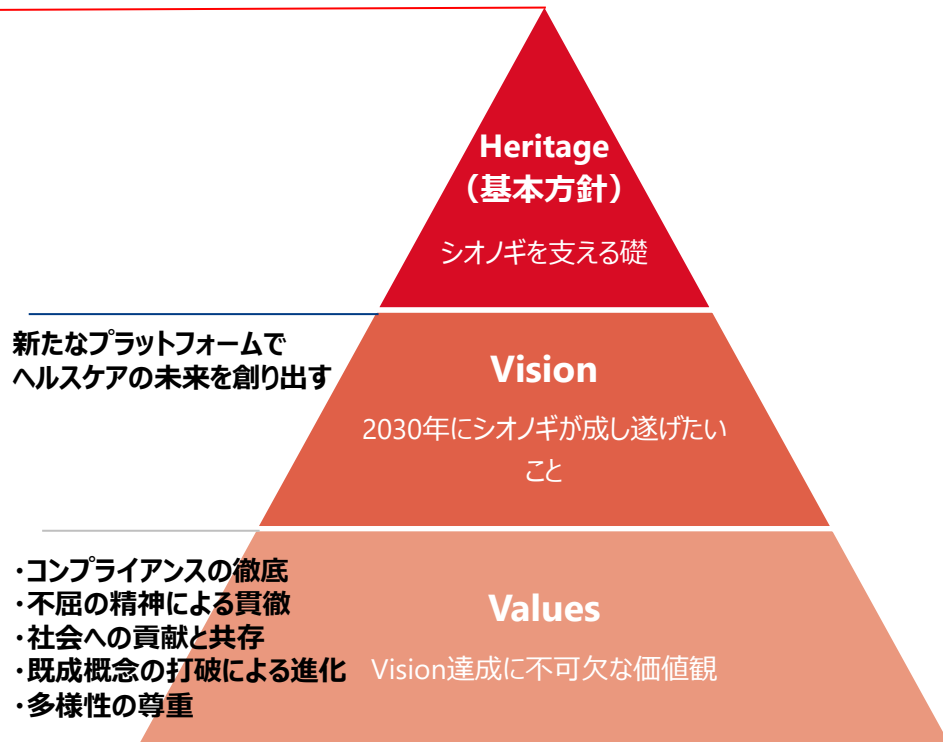
その結果

シオノギの人々は日々の仕事と生活に益々生甲斐を感じる。

シオノギの人々の生活の仕方が益々改善せられる。

シオノギの人々の生活が益々豊かになる。

(1957年1月制定)



What's SHIONOGI -会社概要-

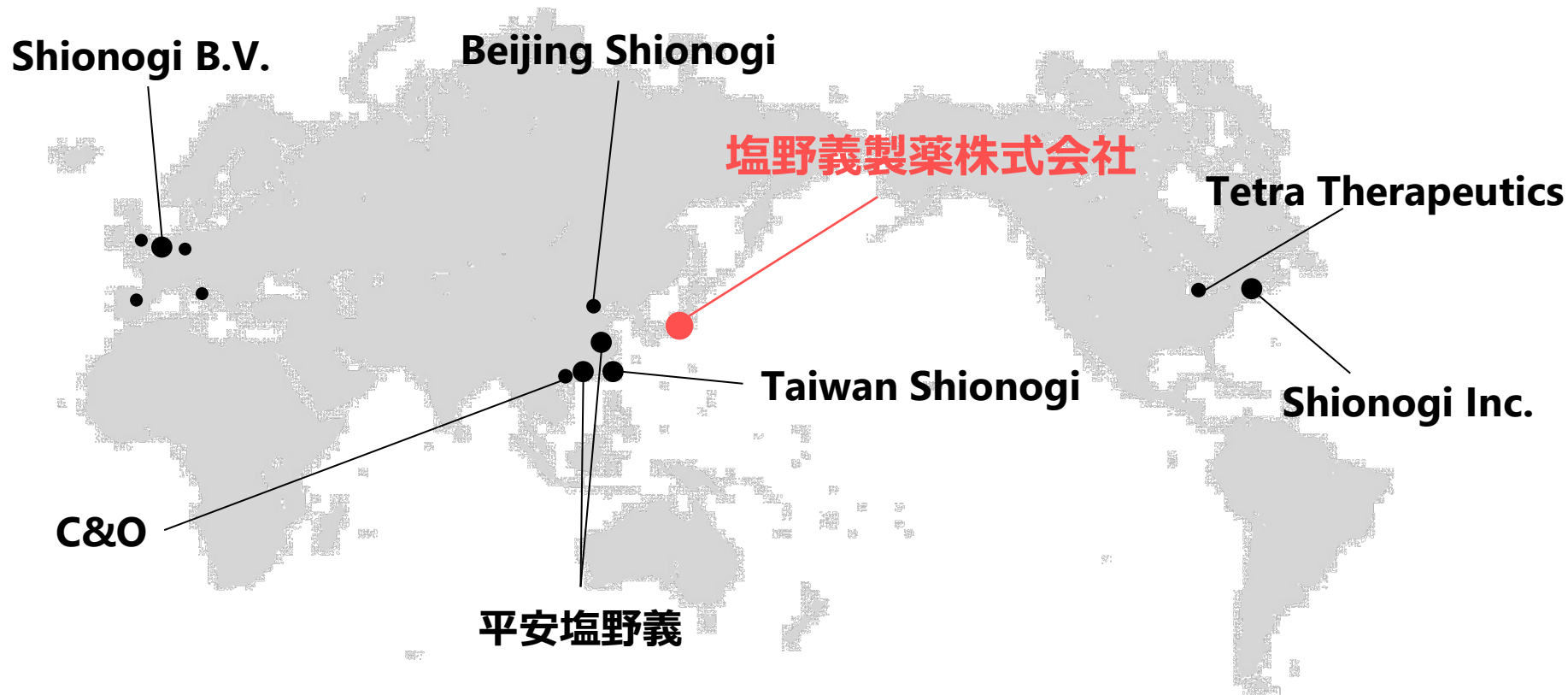


シオノギは、大阪市に本社を置く創業140年を超える製薬会社です
ヘルスケアサービスを提供する「HaaS*企業」として人々の健康に貢献します



商号	塩野義製薬株式会社 SHIONOGI & CO., LTD.
代表者	代表取締役社長 手代木 功
創業	1878年3月17日 「創業144年目」
会社設立	1919年6月5日
本社所在地	大阪市中央区道修町
従業員数	連結 5,485名
業種	医薬品製造販売業
事業内容	医薬品、臨床検査薬・機器などの製造・販売
連結売上高	2,972億円（医療用医薬品 96% 一般用医薬品 4%）**
営業利益額	1,174億円（営業利益率 39.5%）**

What's SHIONOGI -グローバル展開-



What's SHIONOGI -売上収益の構成（2020年度）-





Tivicay

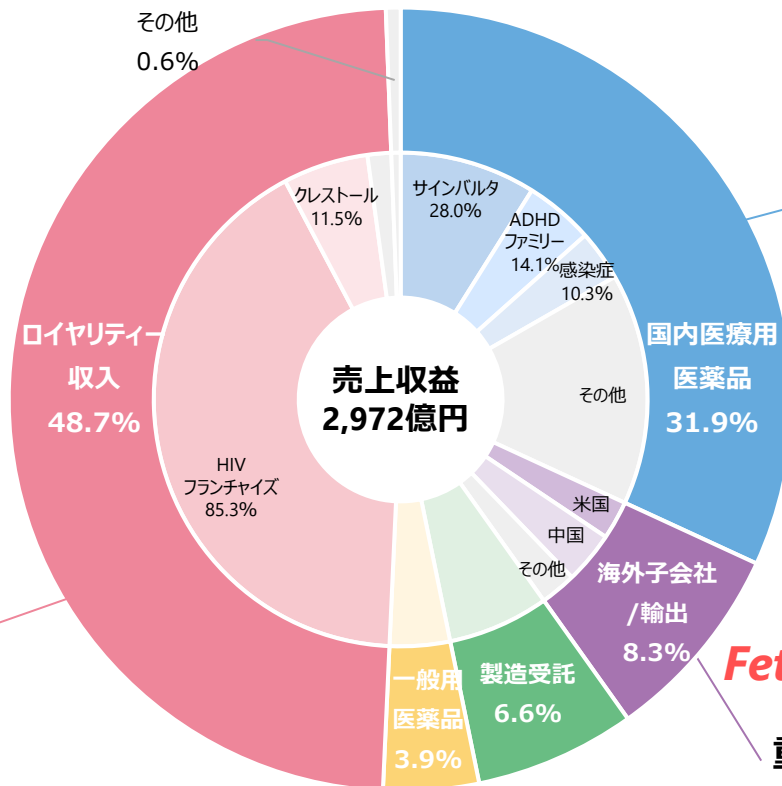
- Tivicay
- Triumeq
- Juluca



Cabenuva

- Dovato
- CABENUVA
- Apretude

HIVフランチャイズ



Xofluza
感染症薬



- | | |
|--------------------|-----------|
| • ゾフルーザ® | • セフテム® |
| • ラピアクタ® | • シオマリン® |
| • プライトボック® Flu・Neo | • バンコマイシン |
| • フィンバックス® | • バクタ® |
| • フルマリン® | • フラジール® |
| • フロモックス® | • フルコナゾール |
| | • イソジン® |

Fetroja/Fetcroja
重症感染症治療薬



研究 & 開発力

変革に踏み切った2000年以降、10品目以上の自社創製新薬を販売



多様なパートナーリング

画期的な新薬を自社で創出し、化合物の価値を最大化するパートナーリングで世界中の患者さまへ新薬を届ける



感染症のノウハウ

60年以上にわたる感染症の研究・開発を通じて蓄積したノウハウを活かし、感染症のトータルケアを追求する



人材

「グローバルな競争に勝ち抜ける強い個人の育成と組織の構築」を進めていく



シオノギ感染症領域の歩み - 自社創薬の感染症薬 -



1878

薬種問屋「塩野義三郎商店」を創業

1959

サルファ剤「シノミン®」

1982

オキサセフェム系抗生物質「シオマリン®」

1988

オキサセフェム系抗生物質「フルマリン®」

1997

セフェム系抗生物質「フロモックス®」

2005

カルバペネム系抗生物質「フィニバックス®」

2014

HIV感染症治療薬「デビケイ」※ViiV社開発

2018

抗インフルエンザウイルス薬「ゾフルーザ®」

2020

抗グラム陰性菌セフェム系抗生物質「Fetroja®」 ※日本未承認

2021

長期作用型注射用HIV感染症治療薬「Cabenuva」 ※日本未承認, ViiV社開発

感染症を注力領域として、60年以上にわたり
感染症薬の研究・開発に取り組んでいる



「シノミン」
発売：1959年



「フィニバックス」
発売：2005年



「デビケイ」
発売：2014年



「ゾフルーザ」
発売：2018年



「Fetroja」
米国発売：2019年

3. 感染症のリーディングカンパニーとしての持続的な成長 -「感染症の脅威からの解放」の実現を目指して-

シオノギの成長の軌跡



**第1次
中期経営計画**
2000年～2004年

創薬型製薬企業を
目指した医薬品事業への集中

**第2次
中期経営計画**
2005年～2009年

研究開発の充実と
グローバル体制の整備

**第3次
中期経営計画**
2010年～2013年

グローバルな成長へ

**中期経営計画
SGS2020***
2014年～2019年

創薬型製薬企業として
社会とともに成長し続ける

**中期経営計画
STS2030****
2020年～

新たなプラットフォームで
ヘルスケアの未来を創り出す



「クレストール」
発売：2005年



「フィニバックス」
発売：2005年



「テビケイ」
発売：2014年



「ソフルザ」
発売：2018年



「Fetroja」
米国発売：2019年

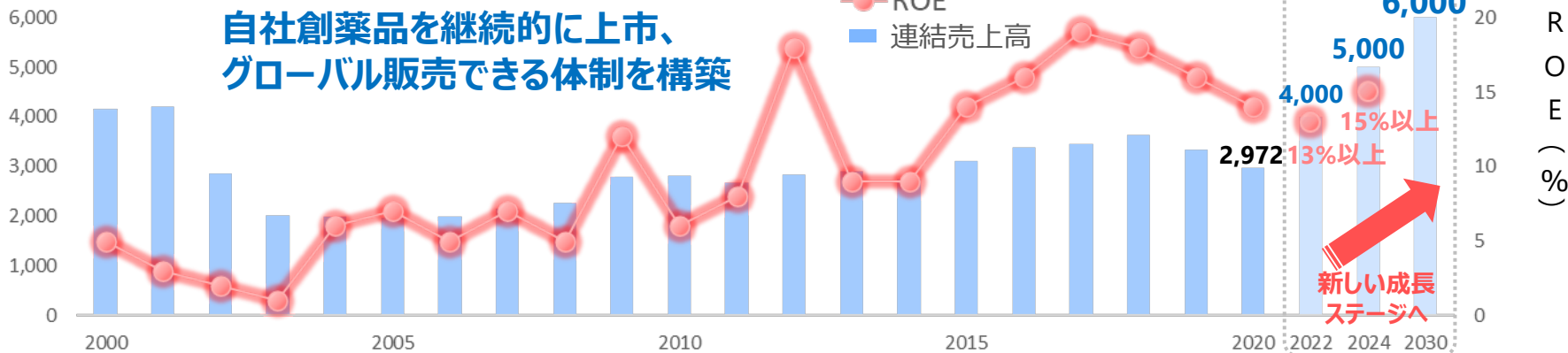


「CABENUVA」
米国発売：2021年

連結売上高（億円）

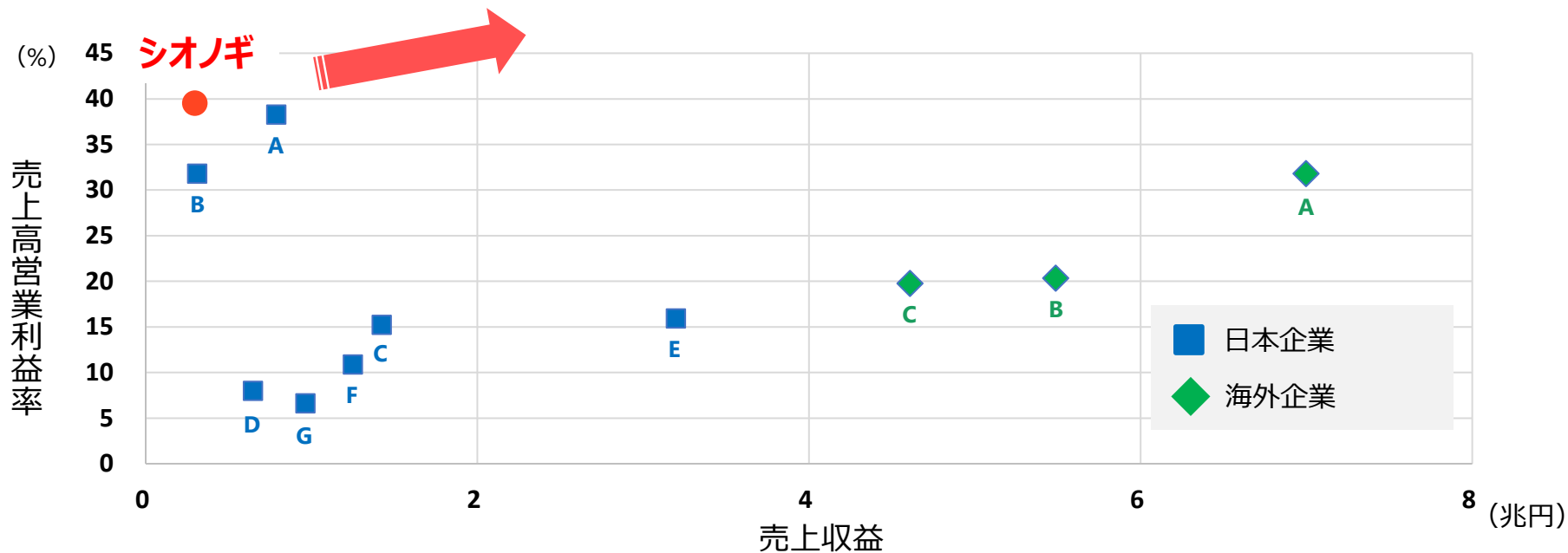
自社創薬品を継続的に上市、
グローバル販売できる体制を構築

● ROE
■ 連結売上高



高い売上高営業利益率

主な製薬企業の効率よく稼ぐ力（売上高営業利益率）の比較



世界の中でも特徴のある、社会から必要とされる企業へ

株価の推移



第1次
中期経営計画
2000年～2004年

創薬型製薬企業を
目指した医薬品事業への集中

第2次
中期経営計画
2005年～2009年

研究開発の充実と
グローバル体制の整備

第3次
中期経営計画
2010年～2013年

グローバルな成長へ

中期経営計画
SGS2020*
2014年～2019年

創薬型製薬企業として
社会とともに成長し続ける

中期経営計画
STS2030**
2020年～

新たなプラットフォームで
ヘルスケアの未来を創り出す

(単位：円)



中期経営計画の進展により、株価は堅調に推移

2030年 Vision

新たなプラットフォームで
ヘルスケアの未来を創り出す

2030年 Visionを達成するための戦略

STS2030

- Shionogi Transformation Strategy 2030 -



STS2030

STS Phase 1 ('20-'24)

STS Phase 2 ('25-)

STS Phase1 3つの戦略

新たな価値創造

i. R&D戦略



革新的パイプラインの開発促進

ii. トップライン戦略



多様なビジネス構築による事業の成長

基盤構築

iii. 経営基盤戦略



新たな価値創造を実現するための基盤づくり

成長の基盤となる開発パイプライン



2022年1月31日時点

非臨床

Phase 1

Phase 2

Phase 3

申請

- S-872600
インフルエンザ予防ワクチン
- S-880008
COVID-19治療薬
- ★ S-365598
HIV感染症

- **S-874713**
各種精神疾患
- S-109802
脳卒中後上肢・下肢痙縮

- **S-540956**
核酸アジュバント
- S-309309
肥満症

- **sivopixant**
神経障害性疼痛
- S-010887
神経障害性疼痛
- S-120083
炎症性疼痛
- S-117957
不眠症

- S-770108
特発性肺線維症
- S-723595
NASH
- S-588210
固形がん

- ★ **asapiprant**
COVID-19重症化抑制

- **sivopixant**
難治性・原因不明慢性咳嗽
- **BPN14770**
アルツハイマー型認知症
- **BPN14770**
脆弱X症候群
- **S-637880**
神経障害性腰痛
- SDT-001
ADHD患者の不注意症状 (小児)
- Rizmoic
オピオイド誘発性便秘症 (小児)
- S-120083
炎症性疼痛

- **レダセムチド**
栄養障害型表皮水疱症
- **レダセムチド**
急性期脳梗塞
- **S-531011**
固形がん
- Epertinib
悪性腫瘍
- S-488210
頭頸部がん
- S-584410
膀胱がん
- S-237648
肥満症
- ADR-001
非代償性肝硬変

- S-268019
COVID-19予防ワクチン
- S-217622
COVID-19治療薬
- セフィデロコル
好気性グラム陰性菌感染症 (小児)
- Xofluza
インフルエンザウイルス感染症 (小児・1歳未満、伝播抑制)

- **zuranolone**
うつ病・うつ状態

- S-588410
食道がん
- SR-0379
皮膚潰瘍

- Xofluza (日本)
インフルエンザウイルス感染症 (顆粒剤 体重20kg未満)
- ★ Xofluza
インフルエンザウイルス感染症 (小児・1歳以上)

- ★ ロバチレリン
脊髄小脳変性症

感染症

精神・神経

新たな成長領域

青字：注カ8プロジェクト

★：アウトライゼンス

革新的な新薬を継続して提供し、持続的な成長を目指す

STS2030におけるKPI



	KPI	FY2020	FY2022	FY2024	FY2030
成長性指標	売上収益	2,972億円	4,000億円	5,000億円	6,000億円
	コア営業利益*	940億円	1,200億円	1,500億円	2,000億円
	コア営業利益率	31.6%	30%以上	30%以上	-
	海外売上高比率 (RYT除く)	16.2%	25%以上	50%以上	-
	自社創薬比率	71%	60%以上	60%以上	-
株主還元指標	EPS	365円	370円以上	480円以上	-
	DOE	4.1%	4%以上	4%以上	-
	ROE	13.9%	13%以上	15%以上	-

SDGsへの貢献



・ 特に重視するターゲット

– 目標3 すべての人に健康と福祉を

- 目標8 働きがいも経済成長も
- 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標12 つくる責任 つかう責任
- 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう



重視する課題（マテリアリティ）

・ 感染症の脅威からの解放

- 感染症関連製品の開発・適正情報の伝達
- 三大感染症（HIV・結核・マラリア）
- AMR・ウイルス感染症（インフルエンザ、コロナ等）

・ 社会生産性向上、健康寿命の延伸

- 社会生産性向上へ貢献
(慢性疼痛・うつ等)
- 超高齢社会への貢献
(認知症やがん等)

・ 持続可能な社会保障への貢献

- 個別最適化された医療の提供
- 価値に見合った適正価格での提供

シオノギの強み

- 感染症のノウハウ
- 研究&開発力
 - 低分子創薬
- 多様なパートナーリング
- 人材



重視する課題（マテリアリティ）

感染症の脅威からの解放

感染症への取り組み

1. ウイルス感染症への取り組み
 - COVID-19*早期終息に向けた取り組み
 - インフルエンザへの取り組み
2. 三大感染症薬の開発
 - HIVフランチャイズの進展
3. AMRを含む重症感染症への貢献
 - セフィデロコルの上市と適正使用推進
4. 新たな感染症ビジネスモデルの構築
 - 持続可能なビジネスモデルの確立

強みである感染症を中心に、社会課題を解決しながら中長期的な成長を実現する

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19) COVID-19の早期終息に向けたシオノギの取り組み



流行予測



- ウイルスの侵入と発生の傾向を早期に検出する下水疫学調査サービス

予防



- 遺伝子組換えタンパクワクチン (S-268019) の開発

診断



- 抗原検査kit
- 重症化予測のためのTh2ケモカインTARC* kit
- 新規迅速診断法

治療



- 新規抗ウイルス薬 (S-217622) の開発
- 開発候補ペプチドの創製

重症化抑制



- 重症化抑制薬 asapirantに関する外部連携

喫緊の課題である医療体制逼迫へのソリューションを提供

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19) COVID-19治療薬：S-217622



経口COVID-19治療薬を取り巻く環境と国産治療薬の意義

- **グローバルでも、使用可能なものは2つのみ**

- ラゲブリオ（メルク） = 米国：EUA*、日本：特例承認
- パキロビッド（ファイザー） = 米国：EUA*、日本：特例承認

- **グローバルにおける両社の供給予定量**

- メルク : 2022年末までに、2,000万人分
- ファイザー : 2022年末までに、12,000万人分

**短期間で何十億人分といったワクチンを供給してきたメガファーマでも、
経口治療薬に関しては、供給量が少ない**

- **国産治療薬の意義**

- シオノギは、S-217622を2021年度は100万人分、2022年度は1,000万人分を生産予定
- **「日本」を優先した安定的な生産・供給が可能**

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19) COVID-19治療薬：S-217622



特徴

- 3CLプロテアーゼ阻害薬
- 1日1回5日間の経口投与
- 既存の変異株と同様にオミクロン株に対する高い抗ウイルス活性を確認（非臨床試験）
- 対象患者想定
 - **ハイリスク因子、ワクチン接種の有無にかかわらない**
 - 軽症、中等症および無症候患者

供給

- 生産予定
 - 2022年3月末までに国内100万人分
 - 2022年度1,000万人分以上/年



開発状況

- **製造販売承認申請（2022年2月25日）**
- Phase 2b結果速報
 - プラセボに対して有意な抗ウイルス効果
 - オミクロン株に特徴的な呼吸器症状において、プラセボに対し有意な改善効果
 - 懸念される有害事象は認められず

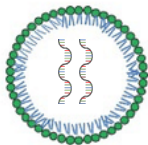
今後のスケジュール

- 国内
 - 軽症、中等症：Phase 3part実施中
 - 無症候/軽度症状のみ：Phase 2b/3part実施中
- 海外
 - グローバルPhase 3試験開始予定

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19)

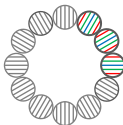
COVID-19ワクチン：ワクチン抗原製造技術の種類

mRNAワクチン
(*コミナティ筋注)
(*スパイクバックス筋注)



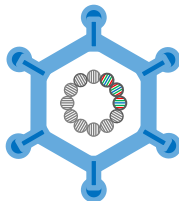
RNA→DNAによる安定化

DNAワクチン
(AG0302-COVID19)



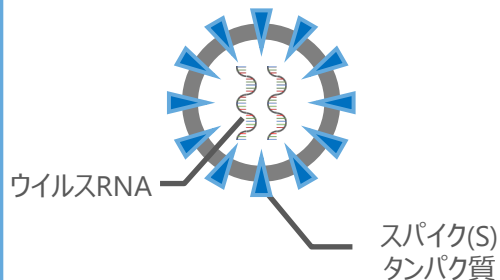
アデノウイルス等の外殻によるDNAの保護

**ウイルスベクター
ワクチン**
(*バキスゼブリア筋注)



新世代の技術

SARS-CoV-2ウイルス粒子
(RNAウイルス)

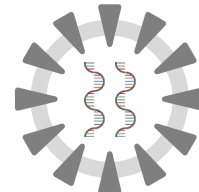


**組換えタンパク質
ワクチン**
(S-268019)



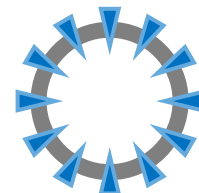
熱・化学処理によるウイルスの不活化

不活化ワクチン
(KD-414)



遺伝情報を持たない空のウイルス粒子

****VLPワクチン**
(*コビフェンツ)



以前からある技術

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19) COVID-19ワクチン：S-268019



特徴

- 遺伝子組み換えタンパク質ワクチン
- **初回免疫および追加免疫の両適応取得を目指す**

供給

- UNIGEN社（原薬製造）、アピ社（製剤製造）と連携し、**3000万人分以上**の供給体制を整備予定

今後のスケジュール

- 現在実施中の臨床試験結果をもとに、事前評価相談予定
- 国内申請に向けて当局と申請内容を相談

実施中の臨床試験

- 5つの最終段階の臨床試験を実施（次頁）
 - Phase 2/3試験
 - 中和抗体価比較試験
 - **プラセボ対照発症予防比較試験**
 - Phase 2/3追加免疫比較試験
 - Phase 3追加免疫比較試験

**国産ワクチンで唯一、
アジアで発症予防比較試験に取り組む意義**

- **グローバルに供給可能な国産ワクチンの実現**
 - 日本のグローバルヘルスに対する貢献、今後の産業の成長
- **100DAYS MISSIONの実現**
 - 次なるパンデミックへの備え

1. ウイルス感染症への取り組み (COVID-19) COVID-19ワクチン：S-268019



現在実施中の臨床試験

- **Phase 2/3試験*1**：3,100例
 - Day57の観察完了
 - 安全性の大きな懸念なし
 - 速報：感染症学会発表予定（4月）
- **Phase 2/3追加免疫比較試験*4**：204例
 - コミナティ筋注2回接種後の追加免疫によるコミナティ筋注との非劣性検証
 - 速報を開示（3月4日）
- **中和抗体価比較試験*2**：1,000例
 - バキスゼブリア筋注に対する優越性検証
 - 全例1回目接種完了
- **Phase 3追加免疫比較試験*5**：150例
 - スパイクバック筋注2回接種後の追加免疫による安全性を評価
- **プラセボ対照発症予防比較試験*3**：54,915例
 - 2021年12月よりベトナムで先行開始

*1 [jRCT2031210383](https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/study?term=jRCT2031210383&rank=1) *2 [jRCT2051210151](https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/study?term=jRCT2051210151&rank=1)、*3 [NCT05212948](https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/study?term=NCT05212948&rank=1)、*4 [jRCT2031210470](https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/study?term=jRCT2031210470&rank=1)、*5 [jRCT2031210613](https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/study?term=jRCT2031210613&rank=1)

1. ウイルス感染症への取り組み（COVID-19） 今後のワクチンに関する取り組みの方向性



経鼻ワクチンの開発



カチオン化ナノゲルデリバリーシステム*



- 投与が簡便で、従来の注射による痛みがない
- 感染部位である呼吸器粘膜ならびに全身に対して効果的に免疫を誘導することが可能
- BEVS*を使ったワクチンは広く実用化され、有効性、安全性が確立している
- 迅速・低コスト・大量生産に適している
- 免疫研究に強み
- 「ヒト粘膜ワクチン学」共同研究部門を設置し、2022年4月始動

- 外部パートナーとの連携により、新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザ、肺炎球菌の経鼻ワクチンを開発予定
- 2022年度臨床入りを目指す

1. ウイルス感染症への取り組み（インフルエンザ） インフルエンザへの取り組み

ゾフルーザ®の開発

自社創製の画期的なインフルエンザ感染症治療薬

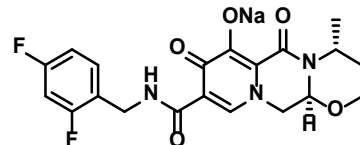
- 高い抗ウイルス効果
 - 成人・小児を問わない、単回投与の経口剤
 - 早期承認・緊急収載
- ⇒ 約4ヶ月の審査期間で承認



シオノギの創薬プラットフォームによる創製

Tivicay

- HIVインテグラーゼ阻害剤
- 高活性かつ高い耐性バリア



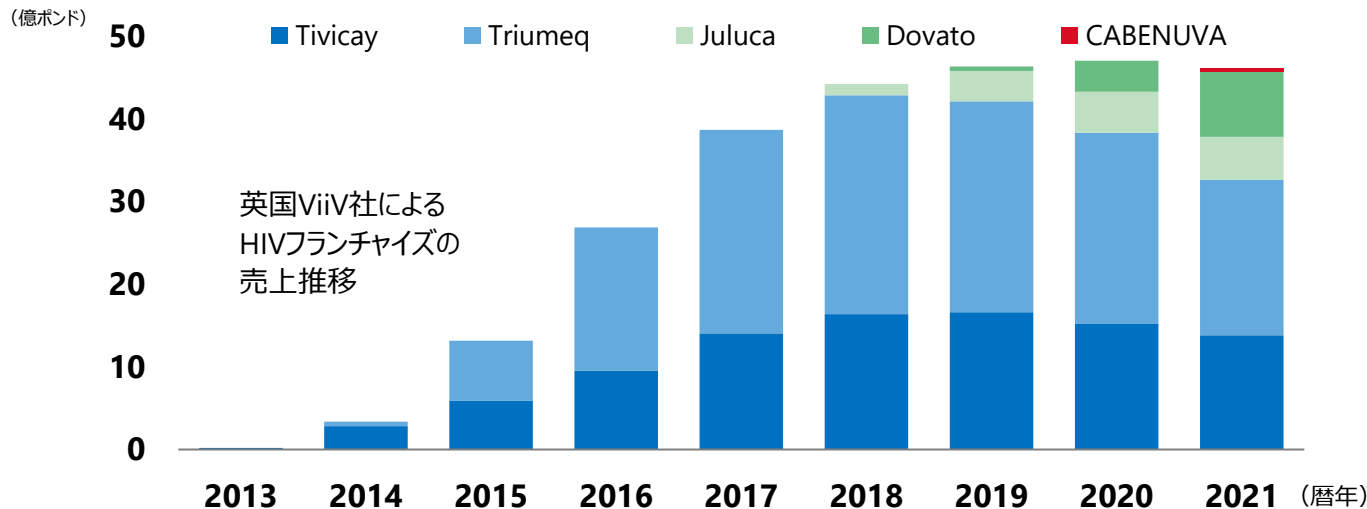
抗ウイルス薬研究 ×
独自化合物デザイン

ゾフルーザ®

感染症のノウハウを基に社会から必要とされる医薬品を迅速に提供

ViiV*社に導出したHIVフランチャイズの売上伸長

- Tivicayをキードラッグとした2剤療法の進展
- HIVフランチャイズの進展に伴いRYTと配当金も増加
 - ViiV社からのRYT収入：1,234億円 配当金：234億円（2020年度）



2. 三大感染症薬の開発 ViiV社によるHIVフランチャイズの進展



長時間作用型製剤による更なる進展

- HIV市場は治療・予防ともに長時間作用型製剤にシフト
 - 2030年に長時間作用型製剤の治療・予防市場はそれぞれ £ 40~50億に成長*

CABENUVA (CAB/RPV**)

世界初の長時間作用型製剤

- 2か月に1回投与の治療薬
 - 治療継続負担を軽減



Apretude (cabotegravir)

予防のための長時間作用型製剤

- 2か月に1回投与の予防薬
 - 毎日の服薬からの解放
- 予防市場のパラダイムシフト
 - 既存薬に比べて高い予防効果

S-365598

第三世代インテグラーゼ阻害剤

- 3か月以上に1回の投与
 - 更なる利便性の向上
- 2023年までにPhase1試験を開始予定

長時間作用型製剤でHIVフランチャイズの更なる成長を実現

3. AMRを含む重症感染症への貢献 セフィデロコルの上市と適正使用推進



AMR（薬剤耐性）とは

「一世紀にわたる医学の進歩を無に帰す恐れがある、ゆっくりと迫る津波」と言われるほど、気づきにくく、比較的ゆっくり進行する深刻な課題

- AMRによる年間死亡者数 ⇒ **70万人**
- AMRによる推定死亡者数（2050年） ⇒ **1,000万人以上***
- 想定経済的インパクト ⇒ **\$100 trillion**

AMR対策は「地球規模で取り組むべき課題」

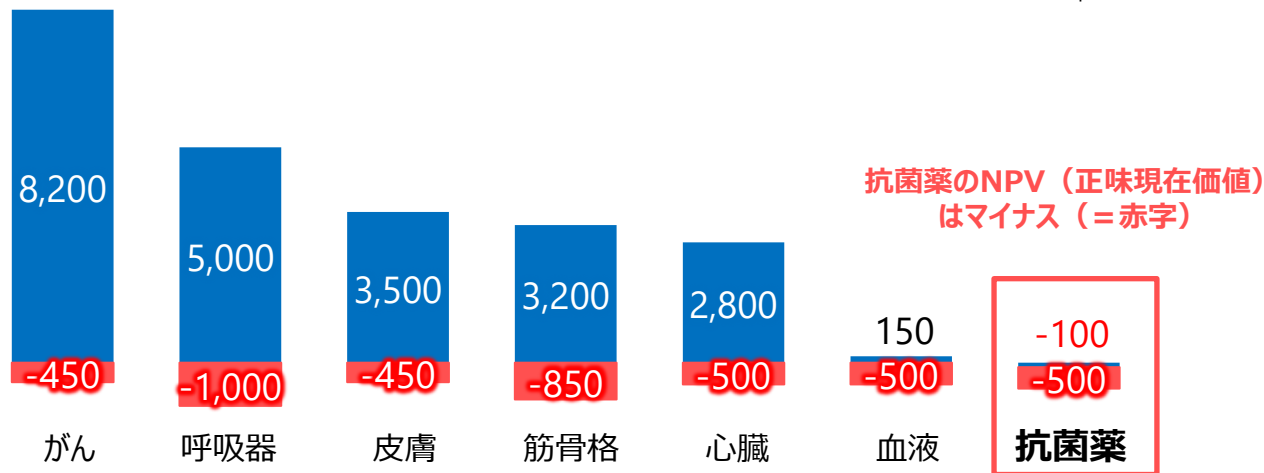


多剤耐性グラム陰性菌感染症治療薬Fetroja（セフィデロコル）の上市とともに、
新たな耐性菌・耐性ウイルスの発生を防ぐための適性使用推進を継続**

4. 新たな感染症ビジネスモデルの構築 感染症ビジネスの難しさ

薬効領域別の収益性

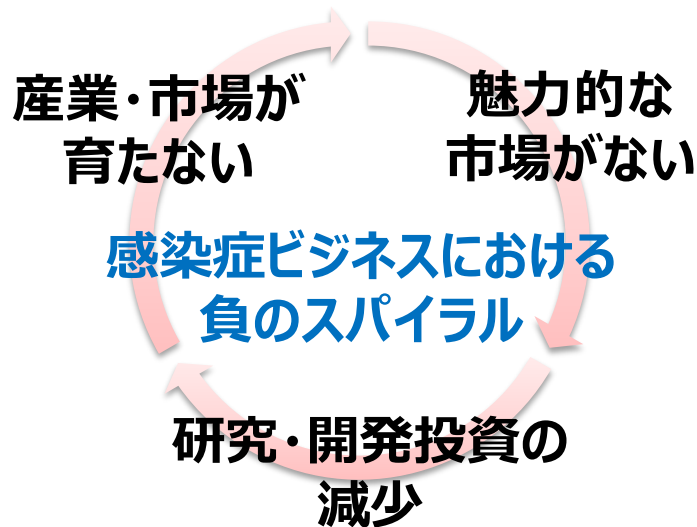
(単位：百万\$)



収益予見性の低さから多くの企業が抗菌薬研究開発から撤退、
感染症薬を開発するベンチャー企業も倒産

4. 新たな感染症ビジネスモデルの構築 持続可能なビジネスモデルの確立

持続可能なビジネスモデルの構築に向けて

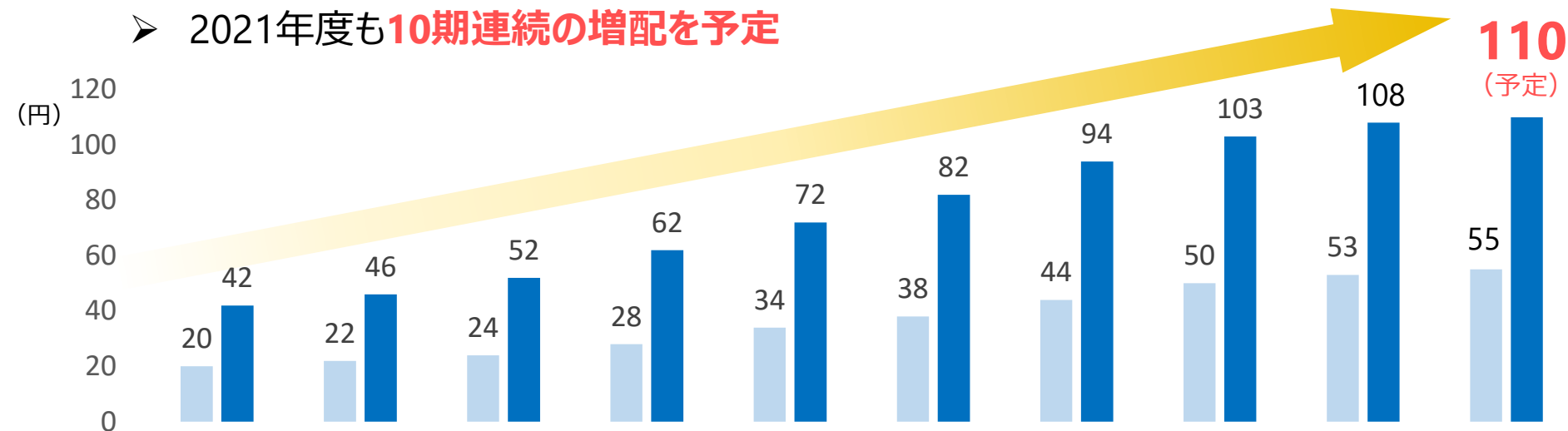


平時には社会から支えて頂き*、有事には最大限の貢献を果たすというモデルの構築
⇒ 感染症対策に社会全体で継続して取り組むことが必要

4. 株主還元

・ 成長とともに実感していただける株主還元政策

➤ 2021年度も**10期連続の増配を予定**



年度		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
自己株式	取得額	-	-	300億円	-	350億円	294億円	500億円	500億円	500億円	
	消却数	-	-	-	-	2,200万株	500万株	735万株	520万株*	-	

ご清聴ありがとうございました



あしたの感染症と、
たたかっている。

感染症がこの世からなくなることはない。
パンデミックも、きっとまた起こる。
だからこそ、シオノギは逃げずに向き合い続けます。
その時私たちの創るワクチンが、治療薬が、
強く、強く、ひとつでも多くのいのちを守れるように。
薬ができることの、その先へ。



シオノギのソーシャルメディア公式アカウント



Twitter
SHIONOGI/シオノギ
@SHIONOGI_JP



Instagram
SHIONOGI/シオノギ
@shionogi_official



YouTube
Shionogi/シオノギ



YouTube
シオノギカナデ
/Shionogi Kanade